



分野会長挨拶 第79回日本胸部外科学会 定期学術集会開催にあたり

分野会長（心臓） 小野 稔
東京大学心臓外科

第79回日本胸部外科学会学術集会を心臓分野担当として、呼吸器分野の京都府立医科大学井上匡美先生、食道分野の浜松医科大学竹内裕也先生とともに京都国際会館で開催させていただきます。診断・治療技術の高度化・専門化が進んでいる中、3分野の独自性を維持しながら各分野の最先端に触れることができる学術集会を実現することを目指して掲げました。今回は3会長が対等に運営を行う最初の学術集会です。テーマを「胸部外科の新たな時代へ～Over the Horizon～」と致しました。各分野における新たな知見や治療戦略が次々と展開されていく時代の中、本学術集会において10年先を見据えた展望を見通すことができる学術集会としたいとの3会長の強い決意を込めています。同時に、胸部外科学会として協調体制を原則としながら、3分野の独自性を遺憾なく発揮していきたいとの思いが込められています。

心臓大血管の分野における新しい技術とデバイスの開発、さらには人工知能の導入と展開は急速に進んでいます。先進的な心臓大血管治療を牽引する外科医25名を世界各国からお招き致します。これらの先生方は多くの日本からの留学生を受け入れてきた経験をお持ちで、日本の外科医の勤勉さと謙虚さとともに、丁寧な治療を実践することを理解して頂いています。招待する先生方は皆さんとてもフレンドリーです。この機会に是非とも日々の臨床に活かせるノウハウを学び取って頂きたいと思います。独自の治療体系を構築して素晴らしい手術成績を挙げている国内施設も複数あります。これらの施設の発表には多くのヒントが隠されています。大いに学び取って頂ければと思います。今回から、STSとのコラボ企画を開催することになりました。日米の論客の発表は乞うご期待です。今回、過去最高の1461題の応募を頂きました。心臓血管分野は64.7% (462/714) の採択率に絞らざるを得ませんでした。聞き応えのある発表が目白押しです。

外科医不足が叫ばれる昨今、皆さんには広大なステップアップの地平が広がっています。タスクシェア・シフトの導入と拡大、外科医業務に集中しやすい環境の整備に加え、施設拠点化が進むことによって経験できる手技が増え、1人当たりの業務負担は軽減されていくに違いありません。待遇改善を進め、外勤の時間を削減し、研究の時間を取ることができるようにすることは世界と対等に肩を並べるためにも重要です。

秋の京都は見どころ満載です。日頃の忙しい臨床から解放され、多くの仲間たちと和やかな時間を過ごして頂き、最高の思い出となる学術集会にして頂ければ幸いです。



分野会長挨拶 第 79 回日本胸部外科学会 定期学術集会開催にあたり

分野会長（呼吸器） 井上 匡美

京都府立医科大学大学院医学研究科 呼吸器外科学 教授

第 79 回日本胸部外科学会定期学術集会呼吸器分野会長を務めさせていただきます、京都府立医科大学の井上匡美です。伝統ある本学会は、今回より従来の統括会長および分野会長による運営から、心臓・食道・呼吸器の 3 分野会長制に移行いたします。これまで以上に、それぞれの分野が独自性を発揮しつつ、小野稔心臓外科分野会長・竹内裕也食道外科分野会長とともに、ひとつの胸部外科学会としてメッセージを発信できればと考えております。「胸部連合外科学会」としての一体感と各領域の専門性を高次元で融合させてまいります。

今回は 3 領域横断シンポジウムとして「胸部外科領域におけるデバイス開発」と「胸部外科領域における AI の利用」、3 領域横断ワークショップとして「局所進行胸部悪性腫瘍に対する胸部外科合同手術：周術期治療、隣接臓器合併切除、心肺補助循環、大動脈ステント」、そして心臓・呼吸器横断パネルディスカッションとして「脳死下移植心および肺提供におけるタスクシェアの現状と展望」、さらに呼吸器・食道横断パネルディスカッションとして「胸部外科領域のロボット支援手術における術中トラブルシューティング」を設けました。

特別講演にお越しいただく、落語家で立川談春師匠の弟子で立川流初の女流真打、立川小春志師匠には、「男性達から成る落語家社会における女性落語家の新たな活躍」というテーマでお話しいただきます。かつての胸部外科学会とも重なる「男社会」の業界に新しい風を吹き込んでこられた歩みから、多くの刺激と示唆をいただけるものと期待しております。

本集会のメインテーマは「胸部外科の新たな時代へ ～Over the Horizon～」です。ポスターに描かれた男女の外科医とメディカルスタッフが夜明けの地平線を見つめる姿には、未来を語り合う強い意志が込められています。癌薬物療法の進歩とこれに伴う局所進行癌に対する拡大手術、低侵襲で精緻なロボット手術をはじめとした技術革新、社会構造的な患者の高齢化に伴う併存疾患と周術期合併症の管理、胸腺腫瘍の病理病態と低侵襲手術の長期成績、再発率の高い若年性気胸と高齢者の難治性気胸、肺移植分野の新しい技術、ワーク・イン・ライフ時代の外科医教育・研究、海外・国内留学の意義、など、様々な課題について、将来を見据えながらベテランから中堅・若手を交えて活気あふれる議論ができるプログラムとなりました。トピックスの草案から演者の選定などに、多大なるご尽力をいただきましたプログラム委員の先生方に深謝申し上げます。

今回は、領域横断 87 演題、呼吸器分野としては過去最多の 505 演題ものご応募をいただきました。限られた会期の中で十分な議論の時間を確保するため、厳正なる査読（完全ブラインド・利益相反のない 3 名の評議員による評価）を経て、採択率は 65.9% となりました。惜しくも不採択となった皆様には心よりお詫び申し上げますとともに、次回第 80 回での再挑戦を心よりお待ちしております。なお、最高点を得た 2 演題は優秀演題としてサージカルフォーラムでの発表および表彰を行います。

私は、外科医の絶対的基軸である技術論に加え、病理学・腫瘍学・免疫学・生理学などを踏まえた「胸部外科学」を目指して轍を刻むことが、後進にとって尽きない興味と夢のある胸部外科学分野の発展につながってゆくと信じております。

京都での開催は 2019 年（第 72 回・伊達洋至会長）以来 7 年ぶり、京都府立医科大学としては初のホストをさせていただきます。国立京都国際会館での熱い議論はもちろん、風薫る秋の古都の散策や旬の味覚もぜひご堪能ください。

帰路に就く際、参加された皆様が「胸部外科医になって本当によかった」と心から実感できる学会を目指してまいります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



分野会長挨拶 第79回日本胸部外科学会 定期学術集会開催にあたり

分野会長（食道） 竹内 裕也
浜松医科大学 外科学第二講座

このたび第79回日本胸部外科学会定期学術集会食道分野会長を拝命いたしました。歴史と伝統を誇る本学術集会を担当させていただきますことは身に余る光栄に存じます。今回より統括会長制から3分野会長制となりましたが、心臓 小野 稔会長、呼吸器 井上匡美会長とともに日本胸部外科学会のさらなる発展に向けて、3分野がそれぞれの独自性を打ち出しながらもより強力に連携・統合するよう準備を進めております。開催にあたり多くの先生方のご支援、ご協力を賜りますことに心より御礼申し上げます。

食道外科は胸部外科のみならず消化器外科、頭頸部外科にまたがる領域にあり、頸部から腹部まで広い範囲の手術に加え、特殊な周術期管理を要するため、高度な技術や経験を必要とします。近年食道癌治療は、低侵襲手術としてのロボット支援手術や縦隔鏡下手術、免疫チェックポイント阻害剤を含む集学的治療とコンバージョン手術、そしてAIやリキッドバイオプシーなど著しい進歩を遂げております。今回学術集会のテーマは、「胸部外科の新たな時代へ～Over the Horizon～」ですが、食道外科はまさに“新たな時代”に突入しようとしております。

今回食道分野の主題演題として、ロボット支援食道切除術の手術手技と治療成績、cT3br/T4食道癌に対する治療戦略、食道癌・食道胃接合部癌に対する conversion surgery の適応と pitfall、食道切除後胃管再建 Ivor Lewis vs McKeown、超高齢者食道癌に対する治療方針、縦隔鏡下食道切除術におけるトラブルシューティング、ロボット支援手術時代における若手食道外科医の育成、胃管作製と吻合法の工夫など、いま最も旬なトピックを取り上げました。また、左反回神経周囲リンパ節郭清の未編集ビデオを用いたビデオクリニックや、毎年恒例の食道困難症例検討会、日本胸部外科学会/日本食道学会/日本内視鏡外科学会共同企画「食道外科専門医・JSES 技術認定合格を目指して」など盛りだくさんの企画を用意しております。

領域横断セッションも数多く企画いたしました。心臓、呼吸器、食道の3分野の先生方がその経験や技術を共有することで、胸部外科学会ならではの新たな知見や成果が発信されることを楽しみにしております。また領域を超えた交流により、ご参加の先生方がたくさんの新しい友人をつくれ、ともに京都の夜の街に繰り出していただければ望外の喜びです。

今回、食道分野としては過去最多の216演題（上級演題59、一般演題157）が採択されました。本当にありがとうございます。実りある学術集会になりますよう尽力いたしますので、何卒ご協力の程よろしくお願いいたします。